住民参加型在宅福祉サービス団体全国連絡会に参加して

NPO 法人　地域たすけあいの会職員　　森　千世加

私は、NPO 法人地域たすけあいの会の職員となり、１週間ほどの時に「住民参加型在宅福祉サービス団体全国連絡会」に参加させていただきました。皆さんのパワフルな姿に圧倒されながらも、何か一つでも持ち帰れるものがあればと思っていました。その中で、私が勤務する「グッドシーズン高瀬」で活かせるのではないかと思う活動が２つありましたので、それをお伝えしたいと思います。

先ず１つ目は、北海道中川郡池田町で取り組まれている「ふまねっと運動」で、これは、

①高齢者が行う介護予防を主体的に支えることができる介護予防プログラムの開発により、指導者が専門職ではなく一般高齢者でるため、住民自身が全町に広めることができること。
②とにかく「ほめる。」間違えても笑いがおこることで助け合いに必要な文化が醸成し根付くこと。
③「ふまねっと」を持ち込めば、どこでもサロンになるという、介護予防に一貫性が生まれること。
④同年代が活躍する姿を見て、参加者が目標をイメージでき、参加意欲が高まる。

という４つの視点から取り入れられたということです。また、転倒予防や認知症予防に効果が期待できるとのことなので、デイサービスのプログラムに取り入れてはどうかと考えました。実際に、活動の様子を見ることはできませんでしたが、指導者となるためには、講習を受けることが必要だということで、大学に先生を招き、学生とともに学び、地域に根ざす取組を行うことが、少しずつでも要介護者が要支援者に、要支援者が自立できるようにしていくための１つの要素になるのではないかと思います。

次に２つ目ですが、札幌市白石区の札幌市在宅福祉活動団体の「みんなの茶の間“くるくる”」の活動です。代表の土橋さんは、活動をする中で、

①介護予防･生きがいづくりの場となること。
②見守り、安否確認の一端を担うこと。
③人に寄り添い、緩やかな関係で支え合う。

という３つの意義が在宅介護にあることが見えてきたそうです。さらに、サービス付き高齢者向け住宅を、「地域とつながるサロン」として活動しているところもあり、そこの住民は町内会の会員として参加し、その他の参加者は、300 円の会費を支払って活動に参加することで、災害時にはサロンを避難所としても使用できるようにしているということでした。

現在、「グッドシーズン高瀬」では、入居者とデイサービス利用者だけの交流となっており、近所の住人が散歩される姿は見かけるものの、施設内に入っての交流はできない状態です。開かれた環境を作ることで、地域に溶け込み、様々なことを発信していく場所となっていくのではないかと感じています。